



自治体における組織横断的な連携 ～ 精神障害者の地域移行を通して～

新潟県長岡市福祉保健部福祉課

障害支援係 齋藤加奈

報告内容

- 自己紹介
- 長岡市の紹介
- 地域移行支援について
- 新潟県における地域移行支援の体制と役割
- 実際に支援をしたケースの紹介
- 連携をスムーズにおこなうための工夫
- まとめ

自己紹介

- 保健師としての経験...16年目
- 現在の職場...平成22年4月～
- 担当業務
 - 障害者への相談業務
 - 触法・心身喪失者医療観察法に関すること
 - 障害者虐待に関すること
 - 精神障害者家族会に関すること

長岡市の紹介

- 新潟県のほぼ中央部に位置し、平成17年度に9市町村、平成21年度に1町と合併。「長岡地域」「中之島地域」「越路地域」「三島地域」「山古志地域」「小国地域」「和島地域」「寺泊地域」「栃尾地域」「与板地域」「川口地域」の11地域で構成されている。
- 日本一の大河、信濃川が市内中央をゆったりと流れ、守門岳から日本海まで広がる。

長岡市の紹介

- 人口：277,623人(H27.6.1現在)
- 面積：890.91km²
- 合言葉：「前より前へ！長岡
人が育ち地域が輝く」
- 市の花：ツツジ
- 市の木：ケヤキ







長岡市の紹介

○ 障害者数(手帳交付者 H27.4.1現在)

- 身体障害者 10,004人
- 知的障害者 2,079人
- 精神障害者 1,480人

(自立支援医療受給者:3,301人)

○ 精神科病院・精神科クリニック

- 県立精神科病院 1箇所
- 民間の精神科病院 3箇所
- 総合病院の精神科 2箇所
- 精神科クリニック 6箇所

長岡市の紹介

○ 保健師の配置

- 福祉保健部 健康課 15名
- 長寿はつらつ課 6名
- 介護保険課 1名
- 福祉課 2名
- 教育委員会 子ども家庭課 8名
- 支所(10箇所) 28名

(障害福祉サービス)

地域移行支援事業について

○ 地域移行支援

- 障害者支援施設、精神科病院等に入所または入院している障害者を対象に、住居の確保その他の地域生活へ移行するための支援をおこなう。

○ 地域定着支援

- 居宅において単身で生活している障害者等を対象に、常時の連絡体制を確保し、緊急時には必要な支援をおこなう。



新潟県における 地域移行支援の体制と役割

関係機関のネットワークと役割

補助事業

保健所
 圏域内の調整及び連携推進
 市町村、精神科病院等への積極的な働きかけ
 市町村に対する管内の精神障害者に係る状況の情報提供
 県民に対する普及啓発

障害者地域生活支援センター
 (圏域の相談支援拠点)



支援体制整備
 申請前支援 スーパーヴァイズ
 医療機関、市町村等関係機関に対する事業周知
 地域移行支援に対する助言・支援
 地域資源に関する情報集約と発信

新潟県自立支援協議会
精神障害者地域移行支援部会
 事業評価
 関係機関への地域移行・地域定着推進に向けた働きかけ
 県内の支援体制整備の推進

精神保健福祉センター
 地域移行ネットワークに対する技術支援
 人材育成

障害福祉課
 全県的な取組に関する調整
 地域相談支援に係る事業者の指導監督の実施

働きかけ

精神科病院
 退院支援の実施
 申請支援



連絡調整会議地域移行支援部会
 = 地域移行のネットワーク

連携

障害福祉サービス事業所
 サービスの提供



申請 支給決定

地域移行支援

退院

役割のスライド

市町村(入院前居住地)
 支給決定(予算確保)
 障害福祉サービス等の充実

指定特定相談支援
 (計画作成担当)
 全体のマネジメント

指定一般相談支援
 (地域移行・地域定着)
 個別支援

個別給付



地域定着支援

市町村自立支援協議会
 (地域移行部会)
 地域移行ネットワークの強化
 地域の社会資源の開発の役割強化



計画作成
 訪問相談
 情報提供

訪問相談
 同行支援
 日中活動の体験利用
 外泊・体験宿泊

住居の確保等
 同行支援
 関係機関調整

常時の連絡体制
 緊急訪問・緊急対応³

個別給付化に伴う関係機関の役割分担

圏域障害者地域生活 支援センター

申請前支援
指定特定相談支援事業所及び指定一般
相談支援事業所への支援
精神科病院、市町村、障害福祉サービ
事業所等関係機関への働きかけ
事業、資源の点検・開発への助言(地域支
援体制整備)

保健所

連絡調整会議精神障害者地域
移行支援部会の事務局
圏域内の調整及び連携推進
精神科病院への積極的な働きか
け
利用者の状況に応じ、個別支援
管内市町村への支援

精神科病院

入院患者への働きかけ
事業利用に向けての調整
家族等の関係機関との調整
社会復帰プログラム等の実施



市町村

相談支援の支給決定
経済的支援
各種サービスの窓口
認定調査
利用者の状況に応じ、個
別支援

指定特定相談 支援事業所

全体的な支援計画の作成
事業者との連絡調整
サービス担当者会議の開催
モニタリング

指定一般相談 支援事業所

地域移行支援計画の作成
相談及び援助
体験利用の調整

障害福祉サービ 事業所

利用者の日常生活能力や作
業能力に関する評価
体験利用に関する調整及び
サービス提供

実際の支援(長岡市の場合)

- 病院や施設に利用希望者または利用を勧めたい方がいる場合、圏域センター、相談支援事業所または市に連絡。
- 圏域センターの支援を受け、市(市の職員、市の委託を受けた相談支援事業所)は本人が利用申請できるように、医療機関、施設と連携をとりながら、一緒に働きかけをおこなっていく。

実際の支援(長岡市の場合)

- 申請後は、医療機関や事業所等の関係機関と一緒に、支援方針を検討する(ケア会議の開催)。
- 退院後も、定期的なケア会議を実施。各機関の役割分担を明確にし、チームで支援にあたっている。

連携をスムーズにおこなうための工夫 (他機関と共同実施)

- 圏域センターに随時助言を依頼
- 圏域センター、保健所、市町村で医療機関へ協力依頼
- 医療機関と地域関係者の連絡会
- 医療機関職員への働きかけ(地域資源の見学会など)
- ピアサポーターの育成
- 社会資源の不足...自立支援協議会で問題提起、検討

連携をスムーズにおこなうための工夫 (市が実施)

- 医療機関との情報共有
 - 市の担当者が医療機関に出向き、制度についての勉強会をおこなっている。
 - 市の窓口となる担当者を保健師とし、地域移行支援を利用したらよいかどうか判断に迷う事例や対応に悩む事例について、日々医療機関と一緒に検討している。
 - 長岡市の医療機関は県内各地から入院している方が多く、長岡市の判断のみでは対応できない方も多い。

連携をスムーズにおこなうための工夫 (市が実施)

- 市の自立支援協議会で課題の抽出、検討
 - 退院先のアパートを借りるための保証人がいない方の増加
 - ・ 宅建協会に毎年協力依頼
 - ・ 物件紹介シートの作成
 - ・ ニュースレターの作成

連携をスムーズにおこなうための工夫 (市が実施)

- 相談支援専門員・事業所との情報交換、情報共有、サポート体制の整備
 - 市の保健師と一緒にケースを担当し、事業所職員のサポートをおこなう。
 - ケース本人の希望がなければ、担当事業所は順番とし、多くの事業所が経験を積めるような体制にしている。

連携をスムーズにおこなうための工夫 (市が実施)

○ 高齢部門との連携

- 高齢の事例もたくさんあるため、ケア会議の際には福祉課から積極的に高齢部門に声をかけ、一緒に参加してもらうよう働きかけている。
- 高齢者の退院先がなかなかみつからない現状があるため、課題を検討する会議にも高齢部門から参加をしてもらうよう働きかけ、現状を理解してもらうようにしている。



事例紹介

まとめ・・・自身の反省を含めて

- 「個をみて」「地域をみて」「地域の課題を考え」「施策に提案していく」という働きかけは、保健師以外の職種でもおこなっている。
一緒に連携をしていくことはもちろん、保健師としての強み、役割を見つけていくことが大切だと感じている。
- 福祉の部署では、保健所等含め、保健師以外の職種が勤務しており、保健師と連携する機会がほとんどない。また、福祉と保健の連携はまだ不十分。
他部署の保健師に、福祉制度、サービスの説明を実施。


まとめ・・・自身の反省を含めて

- 入院されている方の支援をおこなう際には、「医療機関の所在地」「退院先」「本人の住所地」が全て異なる市町村のことも多く、広域での支援が必要になる。

県や保健所が調整をしていただけるとうれしいです。

- 市で対応しているケースは年々複雑化してきている。

対応の助言とあわせて、その人の生活の場も一緒に検討してほしい。具体的には・・・。



以上で報告を終了します。

ご清聴、ありがとうございました。



長岡市の マスコットキャラクター紹介

長岡地域・・・ナツちゃん(左)
中之島地域・・・なかのん(右)



越路地域・・・るんるん(左)

三島地域・・・みしまる太くん(右)



山古志地域・・・小太郎(左)
小国地域・・・おぐりん(右)



和島地域・・・なら王 わし麻呂(左)
寺泊地域・・・海の妖精神 まりん(右)



枋尾地域・・・あぶらげんしん(左)
与板地域・・・よいたん(右)



川口地域・・・かわぐっち



地域生活移行部会通信

2014

虹のかけはし

地域生活移行部会は長岡市障害者自立支援協議会の専門部会のひとつです。『病院や施設で入院・入所している障害者の方』が、退院・退所して地域で暮らすための課題の検討や解決のために活動している部会です。

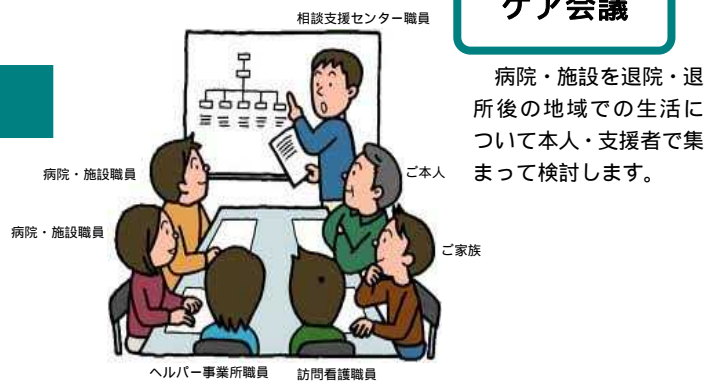
地域移行の流れについて



相談



ケア会議



アパート探しやグループホームの見学・体験等



退院・退所



病院・施設を退院・退所後もさまざまなサービスで本人の地域での生活を支援します。

障害者には身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者等いろいろな方がいます。

出来ること、出来ないこと、必要な支援が人それぞれ違います。

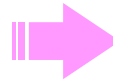
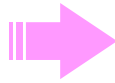
障害のある方がどんな支援を受けながら実際に地域で生活しているかを次のページから紹介します。

身体障害者の方の地域での暮らし

≈車椅子をつかわれている A さん宅の住宅改修の様子≈

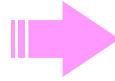
玄関

段差解消 車椅子に乗ったまま、自分で出入りできます



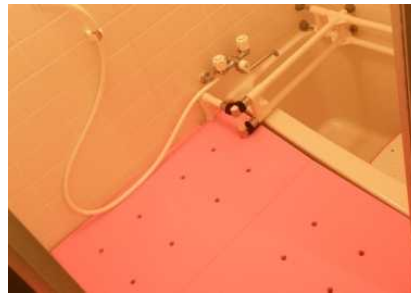
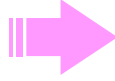
トイレ

手すり取り付け 両側に手すりを付けることで、自分でできます



浴室（脱衣室・洗面所）

段差解消 脱衣室・洗面所から、浴室までフラットになっているので、自分でできます



（浴室）



（脱衣室）

【住宅改修】

住宅改修を行うことで、車椅子で生活しやすくなりました！

できる限り、お借りする前のお部屋を傷めたり汚したりしないよう、『床は車椅子で動いても傷まないよう全面にフロアマットを敷く』『浴室（脱衣室・洗面所）の台は、周りの壁を傷つけないようプラスチック系のものを使用』等、それ以外にも様々な工夫をしています。

その他のサポートとして、ヘルパーが身の回りのお手伝いをします。また、相談支援事業所の職員のバックアップ体制も整備されています。そして、大きな課題のひとつとして、生活の場の改修ですが、これについては補助金制度もあります。

グループホーム・ケアホームでの生活の様子

グループホームとは...障害者が地域で生活するために、世話人、バックアップ施設から支援をしてもらい、4～10人程度で一軒家やアパート形式の住宅を借用し、共同生活を送る所です。



このような一軒家で生活をしています。
ホームによって、いろいろ約束事などありますが、「施設にいた頃よりは、自分で責任をもって行動できるようになりました」というご意見をいただきました。



楽しい食事の時間！！
自分たちで出来る手伝いをして、世話人と入居者皆で協力をしながら食事をつくります。好き嫌いもなくなり、何でも食べれるようになったという方が多いようです。
世話人とは...入居者の食事作りや健康管理、日常の生活支援(洗濯、掃除等の支援)を行っています。



食事の後の片付けは自分たちで行います。
食器洗だけでなく、洗濯、掃除等世話人が一つ一つ支援していきます。いずれは、自分の出来ることを見つけて取り組めるようになることを目標にしています。



昼間は、学生さん、作業所に行かれています方、一般就労している方等いろいろです。
左記の写真は、パン工房で仕事をしている所です。

「初めてグループホームに入居した時は、不安でいっぱいだったけれど、施設や自宅にいるよりも自分が大人になれた」という感想をお聞きでき、私たち支援者としてもとてもうれしく思います。また、「グループホームってどんなところだろう?」と思われた方は、ぜひ見学にお越しいただき、体験利用ということもできますので、ご相談いただけたらと思います。

精神障害者の方の地域での暮らし 精神科訪問看護について

精神障害者が症状や障害があっても地域で暮らせるための地域生活の支援の一つとして訪問看護があります。病院や訪問看護ステーションの看護師や精神保健福祉士が自宅やグループホームなどに訪問をして在宅生活の支援を行います。

訪問看護では、どのようなことを行うのでしょうか。

病状や生活の聞き取りをします。

服薬の確認をします。

福祉や医療関係の書類の確認、作成の援助をします。

生活の支援（掃除、買い物、食事作り）をします。

健康チェックをします。

そして楽しくおしゃべりをします。

精神科訪問看護をご利用されている方のなかには、精神疾患を発症してから精神科病院に入院し、約20年入院治療を受けていた方もいます。入院期間中は社会生活を経験することが出来ない状態なので、退院後の生活ではきめ細かな生活支援が必要となります。そのため、訪問看護ではご本人の希望に合わせて、安心して地域で生活できるような環境調整やご相談などの対応を丁寧に行っています。長期入院の方が退院されて、1人でアパート暮らしを始めた方からは、「病院にずっと入院したい

っていう人はいないね。20年の入院は長かったけれど、退院できて本当に良かった。もっと早く退院したかった。」という言葉をお聞かせいただきました。退院できた喜びと共に、これまで病院で過ごしていた人生を取り戻したいという悔しさも感じました。入院されている方の中には住む場所から探す必要のある方も多くいらっしゃいます。訪問看護師は、今後も各関係機関や地域の方と協力しながら安定した生活を維持できるようにご支援させていただきたいと思っております。




地域生活移行部会での取り組み

【物件紹介依頼シートの作成経緯】

地域生活移行部会では、入院または施設入所されている障がい者が地域で生活していくための課題について検討を重ねてきました。その中で住まいを求める障がい者（借主）と支援者が障害特性にあった物件を見つけることが課題にあがってきました。そこで宅建協会の協力へ協力依頼を行ったところ、当部会の趣旨に賛同いただきました。宅建協会から、具体的にどのような協力をお願いするのか簡単に説明できる資料の作成が求められ、一目で必要な情報がわかるように「物件紹介依頼シート」と説明文として「物件紹介依頼シートの活用のお願い」を作成しました。

【物件紹介依頼シート見本】



障害者と住まいの架け橋 ～物件紹介依頼シート活用のお願い～

私たち長岡市障害者自立支援協議会地域生活移行部会では、住まいを求める障害者を持つ人たちに、不動産業者様から安心して住まいを紹介していただけるように、物件紹介依頼シートを作成しました。一人でも多くの障害者を持つ人たちが地域で笑顔で暮らせるよう私たちは願っています。不動産業者の皆様からは、シートを活用した物件探しにご協力をお願いします。

物件紹介依頼シートの活用方法

①どんな借主かわかる！
借主はどんな障害を持っているのか、保証人はいるのか、収入はあるのか等、重要な事項がシートに記入してあります。

②どんな支援者かわかる！
物件紹介依頼シートは、支援者がいる証明にもなります。借主である本人だけでなく、支援者も一緒に申し込みに行くので、支援者の顔がわかります。

③どんな物件を探しているかわかる！
どのような物件を探しているのか一目でわかります。シートをもとにして、スムーズに話を進められます。

住まいを探しています。
よろしくお願ひします。

本人

支援者
(福祉施設、病院、相談支援事業所等)

私たちがサポートします。

申し込み

物件紹介
依頼シート

紹介

不動産業者 様



【基本情報】
・氏名、年齢、性別
・保証人の有無
・経済状況

【希望する物件】
・地域、間取り
・資料、入居日など

どんな物件を探しているのですか？

★障害種類の希望物件と現状は以下のとおりです。

障害の種類	主な希望物件・現状
知的障害	「グループホーム」や「ケアホーム」。(両者ほぼ生活スタイルは一緒) 4～7名で1軒を借りて共同生活する。朝夕出勤人が食事や金銭管理等の支援を行う。運営するバックアップ施設が24時間体制で運営を行っている。バックアップ施設の職員が宿直する形もある。
身体障害	「グループホーム」「ケアホーム」または「アパート等」。 現状はアパートで生活される方が多く占めている。ヘルパーが身の回りや金銭管理等について支援している。24時間連絡の取れる体制を要している。 バリアフリー等の設備においては、家主様の了解が得られれば、負担を軽減する補助金制度も利用できる。また、入居したらすぐに別の住居に移転するという事はあまりなく、長く暮らしている方が多い。
精神障害	「グループホーム」や「アパート等」。 地域で生活しやすいように訪問看護やヘルパー、相談事業所等のサポートを受け、日中はデイケアや作業所などを利用して生活している。 病気と障害が共存していることや分かりにくい障害の為、一般の方々の理解を得る機会が少ない現状ではあるが、平成18年以降全国的に他の障害者と同じように社会参加が進められている。

※住まいに関しては障害に関係なく、交通の便が良いことや生活必需品の買い物がしやすい等の希望があると思えます。

支援者はどのようなことをサポートするのですか？

★支援者は、次のような支援を行います。

- 契約手続きの立ち会い
- 賃貸借契約の立ち会い及び、介添えを行い、トラブルを未然に防止します。
- 生活ルール等の説明
- 集合住宅の住み方や近隣への配慮事項など生活ルール等の説明により、トラブルを未然に防止します。
- 電話相談
- 借主、貸主のいずれかが困っている時に電話での相談に応じ、不安や悩みを解消を図ります。
- トラブル時の対応
- トラブルが生じた際に、対応の補助をして、迅速かつ機密な解決を図ります。
- 見守り・医療機関との連携
- 電話等による安否確認や服薬にかかる相談対応などを行うとともに、必要に応じて医療機関に連絡等を行い、事故等を未然に防止します。
- 緊急時の対応
- ・入居者が事故、死亡等にまつた際の関係行政機関、連帯保証人、緊急連絡先等への連絡、相談等をサポートします。

長岡市障害者自立支援協議会・地域生活移行部会
事務局 長岡市福祉課
TEL 0250-39-2218 FAX 0250-39-2256

物件紹介依頼シート

住むところを探しています！紹介してください！

様 記入日：平成 年 月 日
所属： _____

◎：個人情報がかかりますので、お取り扱いに十分お気を付け下さい。 担当者名： _____

申込区分	<input type="checkbox"/> 法人 (グループホーム・ケアホーム等立ち上げ)	フリガナ 氏名 (所属)	フリガナ 担当者	フリガナ 連絡先	
	<input type="checkbox"/> 個人	フリガナ 氏名 (所属)	フリガナ 担当者	フリガナ 連絡先	
		所在地	所在地	所在地	
		フリガナ 年齢 歳 性別 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	フリガナ	フリガナ	
		障害者手帳の所持 <input type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 療育 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 経済状況	<input type="checkbox"/> 就労 <input type="checkbox"/> 生活保護	<input type="checkbox"/> 年金 <input type="checkbox"/> 社通	保証人 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
		フリガナ 大規模 (所属)	フリガナ 担当者	フリガナ 連絡先	
		フリガナ 所在地	フリガナ 所在地	フリガナ 所在地	
		地域 (目安)	地域 (目安)	地域 (目安)	
		間取り	間取り	間取り	
		風呂 トイレ	風呂 トイレ	風呂 トイレ	
		専有面積	専有面積	専有面積	
		バリアフリー 設備	バリアフリー 設備	バリアフリー 設備	
		最寄り バス停留所	最寄り バス停留所	最寄り バス停留所	
		その他 (設備・外装等)	その他 (設備・外装等)	その他 (設備・外装等)	
		特記	特記	特記	
		～メモ～	～メモ～	～メモ～	

受付日：平成 年 月 日

長岡市自立支援協議会 地域生活移行部会

物件紹介依頼シートがご入用な方は、地域生活移行部会事務局までご連絡ください。

【活用状況調査を実施した理由】

「物件紹介依頼シート」を各関係機関へ送付してからしばらく経ち、部会内でシートの活用方法等について検討を重ねてきました。その中で各支援機関から、シートの活用により地域移行に繋がったというケースはあまり聞かれなかったため、「関係機関への周知不足があるのではないか。」との意見が上がってきました。

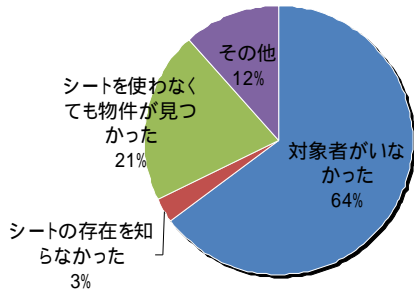
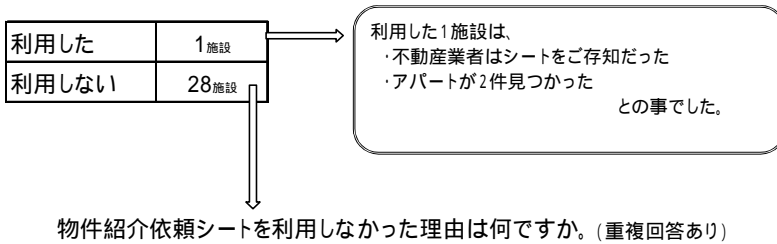
そこで、シートを送付した各支援機関に対して、地域移行に関する制度の理解や意識の浸透状況等を把握し、今後部会内でシートをどのように活用させていくのか等を検討するために、「物件紹介依頼シートの活用状況に係る調査」を実施しました。

【調査結果】

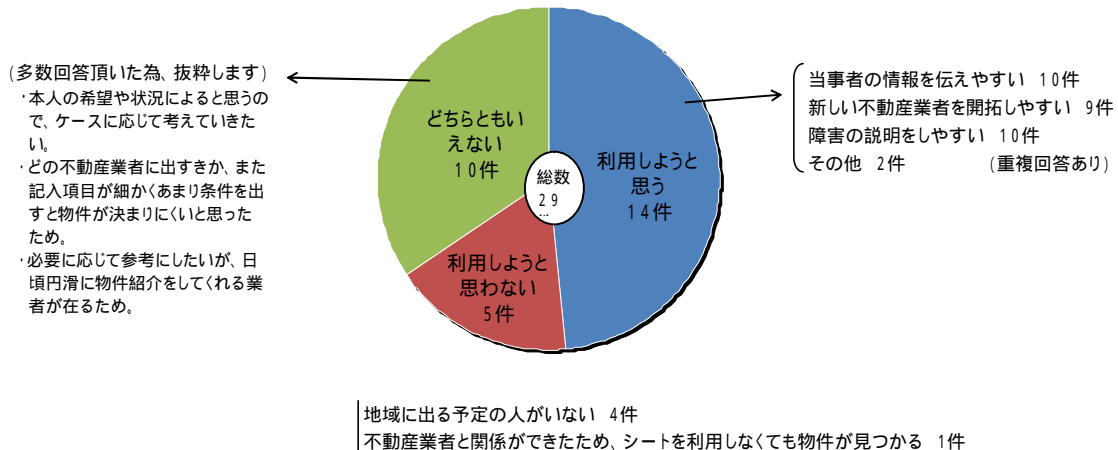
調査対象者：長岡市内の障害者支援施設バックアップ施設、相談支援事業所、精神科病院 計 30 施設
回収数：29 件

物件紹介依頼シートに係る調査結果

1 物件紹介依頼シートを利用されましたか。



2 今後、対象者の住まい探しに、物件紹介依頼シートを利用しようと思いますか。



3 - (1) シートに追加して欲しい項目はありますか

- < 回答 >
- ・エレベーターの有無
 - ・契約上の責任の所在について
 - ・保証人について
 - ・トイレの様式(和・洋・ウォッシュレットの有無)
 - ・駐輪場
 - ・備付の冷暖房
 - ・和・洋室の希望

3 - (2) シートから削除したほうが良い項目はありますか
該当項目はなかった。

3 - (3) その他シートを利用しやすくするために工夫したほうが良いと思うところはあるですか
<回答>

- ・ 支援機関はどこを記載すればよいか？
地域移行であれば、相談支援事業所になるか？記入例があるとわかりやすい。
- ・ 不動産業者も障がいをもつ方々向けに「こうした物件がある」という情報を市のホームページ等に掲載できるコーナーがあると良い。また、市から仲介してもらえると助かります。
- ・ 不動産業者の理解が広まる効果を期待でき、このシート導入はとても素晴らしい取り組みだと思ふ。普及や活用推進のために説明会等の機会があると良い。
- ・ 使いやすいと思う。
- ・ 物件紹介シートが流通するよう、支援者側にも不動産業者側にも使用についての認知度を高める必要があると思われる。使用した場合はモニタリングを行い流通するような改善と働きかけが必要。

4 その他 障害者自立支援協議会で検討して欲しい課題
<回答>

- ・ 地域移行についての制度や具体的な生活について施設職員、利用者ともまだ分かっていない状況かと思うため説明の機会が必要かと思う。
- ・ 余暇支援サービスの充実
- ・ 旧郡部は物件が少ない。公立の単身用をある程度確保する必要があると思う。
- ・ 物件探しは支援者にかかる負担が大きく不安を感じてしまう。精神障害者の場合、病状の変化により緊急介入を要する場合が想定されるが、そのような場合に介入を求められる相談事業所の負担が大きい。医療や行政など共に介入できる仕組み作りは今後の課題ではないかと考えている。
- ・ 地域移行制度を使いやすく
- ・ 本事業を含めPRを積極的に行う必要を感じた。
- ・ 他部会と重なる部分もあるが、当事者が生活しやすい環境づくりの一つとして地域住民の理解や協力体制の確立。
- ・ 地域生活を希望しない、あきらめている本人・家族等へアプローチをどうしていくか。
- ・ 公的な連帯保証人(保証人がいない方に対する公的な保証人サービスのようなものがあれば良い)

5 その他のご意見

- ・ 支援施設を退所し自立生活を行っている者が、生活困窮の状態となり、長岡市に生活保護の相談や申請に来ることがあったら支援施設まで連絡をいただきたい。

【調査結果からの考察】

シートを利用しなかった理由として、「対象者がいなかった」との回答が多かった。地域移行が可能な利用者がいないのか、地域移行可能だが希望がなかったのか、等の詳細が今回のアンケートでは把握できなかったが、今後啓発・周知を徹底する中で対象者を増やしていきたい。

調査の中で「シートを使わなくても物件が見つかった」と回答したところが7施設あったが、そのうち「すでに不動産業者と関係ができていたため」と回答したのは1施設のみであった。現在の支援者と不動産業者との関係だけではなく、支援者がより多くの不動産業者と連携を持つためにも、シートがひとつのツールとして有益であると考えられる。

「地域生活を希望しない、あきらめている本人・家族等へのアプローチをどう図るか」、「地域移行の説明を」という回答が出ていた。地域移行への理解があつてこそシートの活用が広がるものと考えられるため、シートそのものの周知はもちろんのこと、地域移行の啓発・周知に努めていく必要がある。

シートに追加してほしい項目があるという回答があつた一方で、あまり条件を出すと物件が決まりにくいのでは、という回答もあつた。より使いやすいシートとなるよう、今回のアンケート結果も踏まえて考えていきたい。

今後シートを活用したい(「ケースに応じて」も含めて)という回答が大半であつた。シート活用の意義や可能性を感じていただいていると受け止め、今後も周知に努め、地域移行の拡大につなげていきたい。

= あとがき =

長岡市障害者自立支援協議会地域移行部会は、今年度「物件紹介依頼シート」を通じた住まいの確保をテーマにして当事者が安心して暮らせる地域作りのための取組をしてきました。これからも当部会が様々な取組を通じて地域と当事者を結ぶ虹の架け橋になればと部会員一同願っております。最後にこのニュースレターの「身体障害者の方の地域での暮らし」で取材させていただいた A さんのことばをご紹介しますと思います。

「お前のやりたいようにやればいい」と言って育ててくれたお父様と、「堅実派」のお母様に育てられた A さん。自分の考えをしっかりとって「自由に生活したい！」と独り暮らしを始められました。

「自由とは言っても、一人で生活するということは楽しいことばかりではなく、辛く大変なこともある。でも、辛く大変なことも含めて『自分らしい生活』でしょ！」と笑顔で話されていました。

実際に、住む場所が見つかった後も、車椅子で一人で生活できるよう、様々な人の協力を得て、自分も一緒に試行錯誤しながら住宅改修を行い、ようやく独り暮らしを始めることができました。不動産屋さんをはじめ、いろいろな方の応援や協力を頂いて現在の生活が実現、そして継続できていることに感謝しておられました。

『「こうしなきゃよかった。」ではなく「こうしてよかった！」って思うようにしているし、そう思っている。』と独り暮らしを始めてからの3年間を振り返られていました。

以前、市で生活されていたことがある A さん。「市では、障がいのある人が地域で暮らすことは当たり前のことだった。」と... また、「障がいがある人もない人も、住みたい場所で生活ができれば...」と話されていました。

独り暮らしを考えている方への A さんからのメッセージです。

“まずは身近な人に相談してみませんか”

発行者：長岡市障害者自立支援協議会

地域生活移行部会

連絡先：長岡市役所福祉課

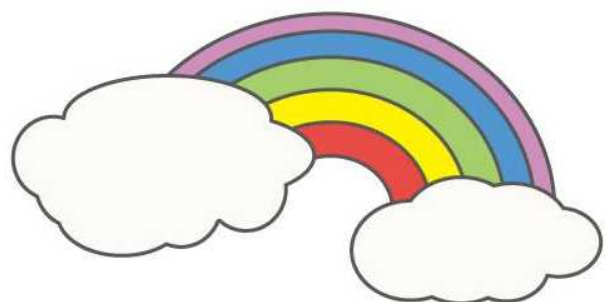
(長岡市大手通1丁目4番地10)

アオーレ長岡)

TEL：0258-39-2218

FAX：0258-39-2256

e-mail：fukushika@city.nagaoka.lg.jp





物件紹介依頼シート

住むところを探しています！紹介してください！

様

記入日：平成 年 月 日

所属：

②：個人情報が含まれますので、お取り扱いに十分お気を付け下さい。

担当者名：

申込区分	法人 (グループホーム・ケアホーム等立ち上げ)	フリガナ			フリガナ					
		機関名	(所属)		担当者					
		所在地			連絡先					
	個人	フリガナ			年齢	歳	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	連絡先	
		氏名								
		障害者手帳の所持	<input type="checkbox"/> 身体	<input type="checkbox"/> 療育	<input type="checkbox"/> 精神	経済状況	<input type="checkbox"/> 就労 <input type="checkbox"/> 生活保護	<input type="checkbox"/> 年金 <input type="checkbox"/> 仕送り	保証人	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
フリガナ				フリガナ						
支援機関	(所属)		担当者							
	所在地			連絡先						
希望物件	地域(目安)			賃料(目安)	円 ~		円			
	間取り	<input type="checkbox"/> 一軒家 <input type="checkbox"/> アパート・マンション		<input type="checkbox"/> 1K・1DK・1LDK <input type="checkbox"/> 3K・3DK・3LDK	<input type="checkbox"/> 2K・2DK・2LDK <input type="checkbox"/> 4K以上()					
	風呂トイレ	<input type="checkbox"/> 一緒に希望 <input type="checkbox"/> 別を希望		希望階数	<input type="checkbox"/> 希望有()階 <input type="checkbox"/> 希望無					
	専有面積	m ² ~ m ²		駐車場	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要					
	バリアフリー希望	<input type="checkbox"/> 有(場所:) <input type="checkbox"/> 無		改修希望	<input type="checkbox"/> 有(場所:) <input type="checkbox"/> 無					
	希望する最寄りの交通機関まで	駅()・バス停()		<input type="checkbox"/> 5分以内 <input type="checkbox"/> 10分以内 <input type="checkbox"/> 20分以内 <input type="checkbox"/> その他()		<input type="checkbox"/> 希望無				
	その他(収納・方角等)			入居希望日	平成 年 月 日					
特記										

～ メモ ～

受付日：平成 年 月 日





障害者と住まいの架け橋

～物件紹介依頼シート活用～

私たち長岡市障害者自立支援協議会地域生活移行部会では、住まいを求める障害を持つ人たちに、不動産業者様から安心して住まいを紹介していただけるように、物件紹介依頼シートを作成しました。

一人でも多くの障害を持つ人たちが地域で笑顔で暮らせるよう私たちは願っています。
不動産業者の皆様からは、シートを活用した物件探しにご協力をお願いします。

物件紹介依頼シートの活用方法

①どんな借主かわかる！

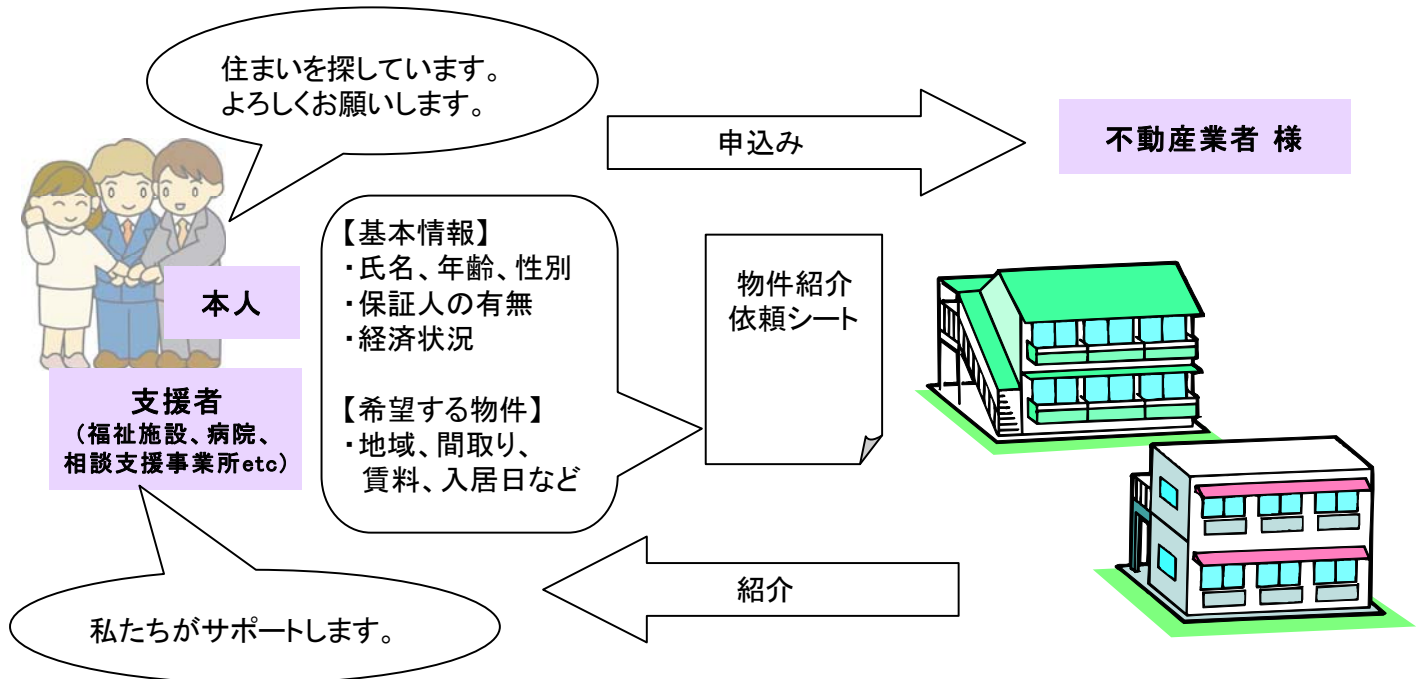
借主はどんな障害を持っているのか、保証人はいるのか、収入はあるのか等、重要な事柄がシートに記入してあります。

②どんな支援者かわかる！

物件紹介依頼シートは、支援者がいる証明にもなります。
借主である本人だけでなく、支援者も一緒に申し込みに行くので、支援者の顔がわかります。

③どんな物件を探しているかわかる！

どのような物件を探しているのか一目でわかります。
シートをもとにして、スムーズに話を進められます。





どんな物件を探しているのですか？

★障害種別の希望物件と現状は以下のとおりです。

障害の種類	主な希望物件・現状
知的障害	「グループホーム」や「ケアホーム」。(両者ほぼ生活スタイルは一緒) 4～7名で1軒屋を借りて共同生活する。朝夕世話人が食事や金銭管理等の支援を行う。運営するバックアップ施設が24時間体制で連携を取っている。バックアップ施設の職員が宿直する形もある。
身体障害	「グループホーム」「ケアホーム」または「アパート等」。 現状はアパートで生活される方が多くを占めている。ヘルパーが身の回りや金銭管理等について支援もしている。24時間連絡の取れる体制も整っている。 バリアフリー等の改修においては、家主様の了解が得られれば、負担を軽くする補助金制度を利用できる。また、入居したらすぐに別の住居に移動するということはあまりなく、長く暮らしている方が多い。
精神障害	「グループホーム」や「アパート等」。 地域で生活しやすいように訪問看護やヘルパー、相談事業所等のサポートを受け、日中はデイケアや作業所などを利用して生活している。 病気と障害が共存していることや分かりにくい障害の為、一般の方々の理解を得る機会が少ない現状ではあるが、平成18年以降全国的に他の障害と同じように社会参加が進められている。

※住まいに関しては障害に関係なく、交通の便が良いことや生活必需品の買い物がしやすい等の希望があると思います。



支援者はどのようなことをサポートするのですか？

★支援者は、次のような支援を行います。

- 契約手続きの立ち会い
 - ・賃貸借契約の立ち会い及び、介添えを行い、トラブルを未然に防止します。
- 生活ルール等の説明
 - ・集合住宅の住み方や近隣への配慮事項など生活ルール等の説明により、トラブルを未然に防止します。
- 電話相談
 - ・借主、貸主のいずれかが困っている時に電話での相談に応じ、不安や悩みの解消を図ります。
- トラブル時の対応
 - ・トラブルが生じた際に、対応の手助けをして、迅速かつ穏便な解決を図ります。
- 見守り・医療機関との連携
 - ・電話等による安否確認や服薬にかかる相談対応などを行うとともに、必要に応じて医療機関に連絡等を行い、事故等を未然に防止します。
- 緊急時の対応
 - ・入居者が事故、死亡等に至った際の関係行政機関、連帯保証人、緊急連絡先等への連絡、相談等をサポートします。

長岡市障害者自立支援協議会・地域生活移行部会
事務局 長岡市福祉課
TEL 0258-39-2218 FAX 0258-39-2256